東北大学法学部 オープンキャンパス
「政治への参加」を考えてみよう

2023年 7月27日

大学院法学研究科・法学部 准教授
金子 智樹

※複写・転載・引用はご遠慮ください。

本日の模擬講義の目標

- 政治学とはどのような学問かを紹介
- 東北大学法学部の政治学の（標準的な）講義を体験
- 投票への参加をモデル式で考えてみる
  - 政治学／投票行動研究の王道テーマ
  - 有権者となる皆さんにとって有用なツールを提供
  - 政治学の魅力の1つである学際性（の一端）を知る
  - 高校までの公民科目と大学の政治学の違いをイメージ

はじめに

自己紹介

- 1991年東京都生まれ
- 2021年3月に大学院博士課程を修了、博士(法学)
  - 専門:現代日本政治、政治コミュニケーション
  - 大学院では「新聞と政治」の研究
    - データ分析／機械学習／インタビュー調査…
  - 有権者の行動や「インターネットと政治」にも関心
- 2021年10月に東北大学法学部に着任
  - 主要担当科目:現代政治分析(2～4年生、4単位)
  - そのほか、様々な演習(ゼミ)を担当

どんな演習（ゼミ）をやっているの？

- 統計ソフトRを使って政治データを分析
  - プログラミングですが、(おそらく)簡単です
  - オンライン調査(サーベイ実験)も演習で実施

```r
# 実験3
T3_0 <- ifelse(df$E3 == 99, NA,
               ifelse(df$E3 == 0, 1, 0))
T3_1 <- ifelse(df$E3 == 99, NA,
               ifelse(df$E3 == 1, 1, 0))

age<-df$Q1
age[age==999] <- NA
female <- df$Q2
female[female==99] <- NA
female <- female-1
education <- df$Q3
education[education>=66] <- NA
education <- 5- education

pid <- df$Q4
pid[pid==99] <- NA
LDP <- ifelse(pid==1, 1, 0)
```

- 現代政治学に関する書籍を読んで議論
  - 「メディアと政治」「ジェンダーと民主主義」など
  - 参加者が研究論文(英語)を紹介してプレゼンすることも
- 2022年参院選の動向をリアルタイムで研究
  - 各候補の選挙運動をウォッチ／地区別の選挙結果を比較分析
  - 現職国会議員をゲスト講師として呼んで一緒に議論

法学部の多彩な政治学系プログラム

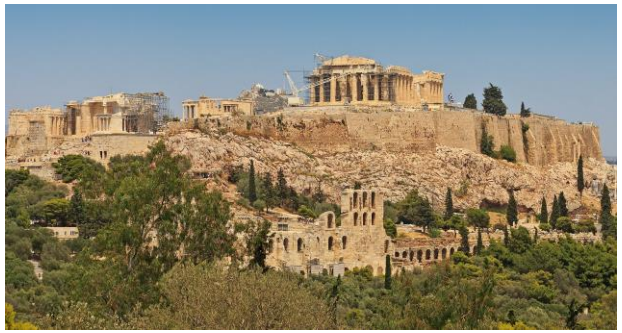
基礎講義	基幹講義	展開講義	
西洋政治思想史Ⅰ	現代政治分析	比較政治学ⅠⅡ	東アジア政治外交論
日本政治外交史Ⅰ	国際関係論	西洋政治思想史Ⅱ	日本政治論
ヨーロッパ政治史Ⅰ	行政学	日本政治外交史Ⅱ	中国政治論
		ヨーロッパ政治史Ⅱ	政治理論

法学だけでなく
政治学も充実

政治学を学ぶとは

そもそも「政治」とは？

- **politics**／政治／まつりごと
- 古代ギリシャ（自由／平等な空間としての**polis**）
  - 余暇としての公共活動（男性家長）
  - 家の経営に関わる経済活動（女性や奴隷）



- 近現代の政治は「政党」「党派」が前提
  - 国会（永田町）での政局に関するニュース
  - 「政治」の話を友達としない／しづらい
  - 今の若年層にとって政治は「身近」ではない？

より広い意味での「政治」

- **人々の意思決定**に関する全ての行為
  - 選挙で政治家を選ぶ
  - 住民投票で政策案を可決／否決する

  - サークルの代表者を選ぶ
  - 家事の分担を家族で決める
  - 「社内政治」
  - 提案、相談、根回し、議論、決断…etc

政治学とは？

- 政治家になるためのノウハウ？
  - 「政治学を勉強／研究しています」に対するお決まりの反応
  - 「法学部なら弁護士になるんでしょ」も定番です
- 政治家のことを分析する学問？
- 選挙の仕組みなどの知識の勉強？
- 現実の政党や政治家に対する批判・論評？

そのような要素もありますが…

政治学とは？

- 定義は様々
  - 「権力のあり方を考える学問」と言われることが多い
  - 「権力とは何か？」もとても難しい問い
    - 例えば「相手に、やりたくない行為をさせるような力」など

- **より良い意思決定の仕組み**を考える学問
  - どれだけ多くの人が満足できるか
  - 少数派の人々が納得できるか
  - 将来世代の利益を考慮できているか

なぜ政治学が必要なのか

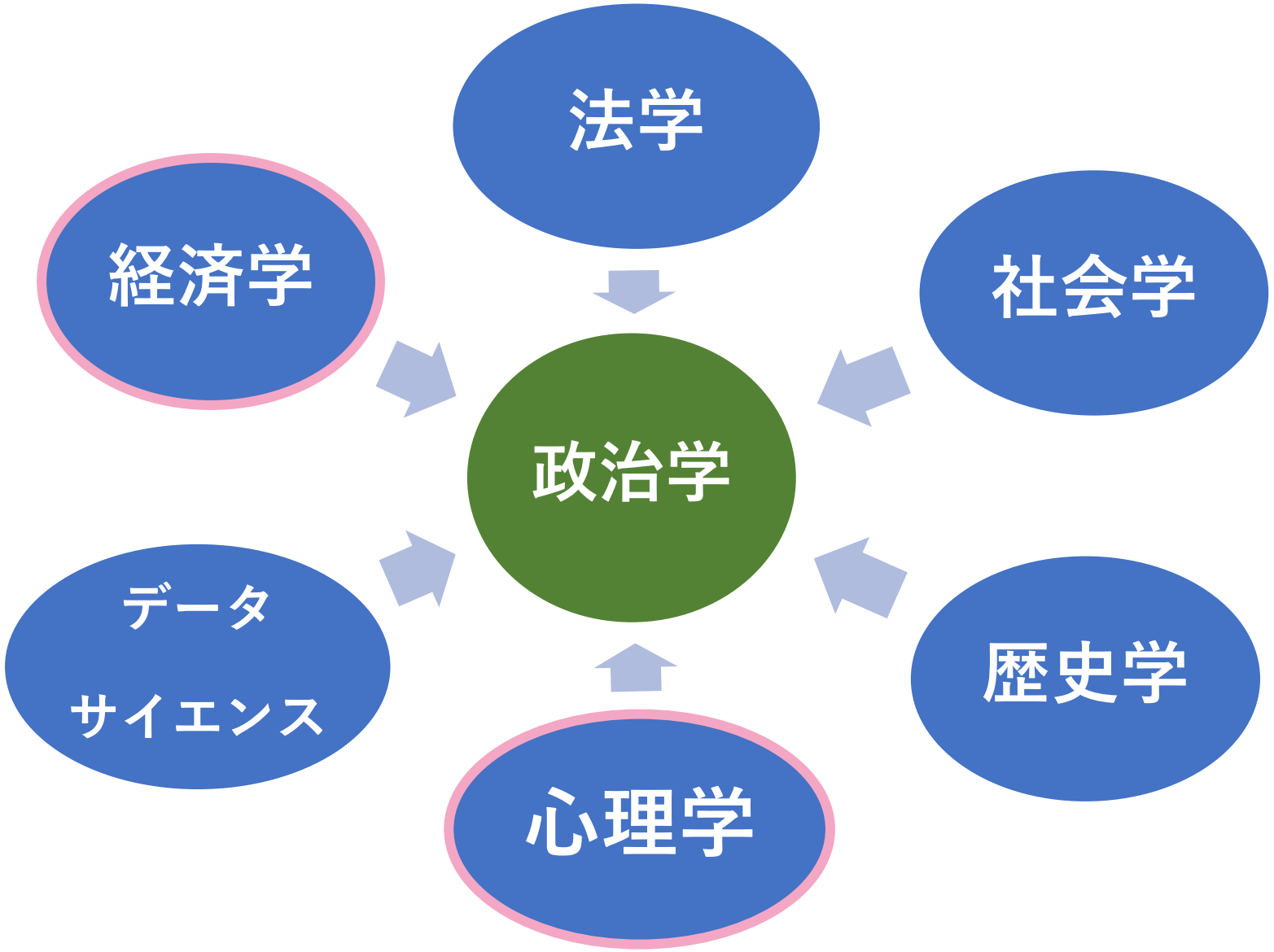
- 政治的な決定は、私たちの生活に影響する
  - 新型コロナウイルス対策
    - 緊急事態宣言を発出すべきか
    - ワクチン接種／マスク着用を義務化すべきか
    - 苦しんでいる産業が多い中で、どの業界を支援すべきか
  - 消費税は何%にすべきか
  - 日本でも同性婚を導入すべきか
  - 極端な例：戦争、迫害…

なぜ政治学が必要なのか

- 様々な利益を全て満たすことは難しい（不可能）
  - だからこそ、より良い意思決定が求められる

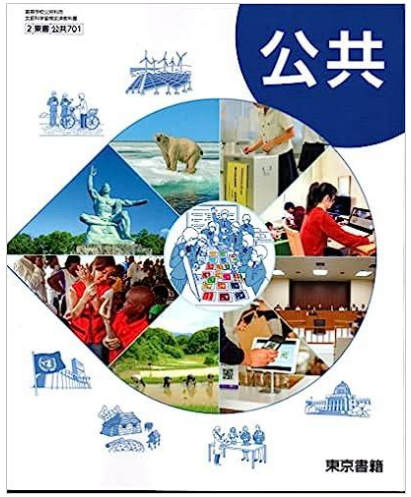
- これからの日本では、**政治的課題が山積み**
  - 少子高齢化、地方の過疎化
  - パイの縮小と「負担の分配」
  - 価値観の変容（ジェンダーに関する争点など）
  - 緊迫する外交・安全保障環境
  - まだまだ途上の震災復興

政治学の学際性



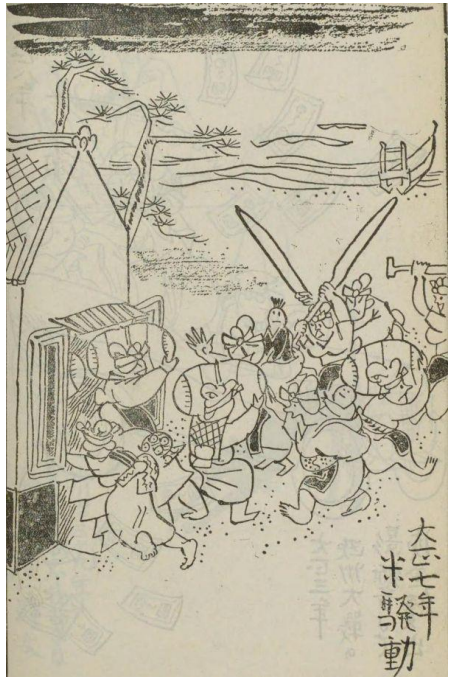
高校までの学習との接続

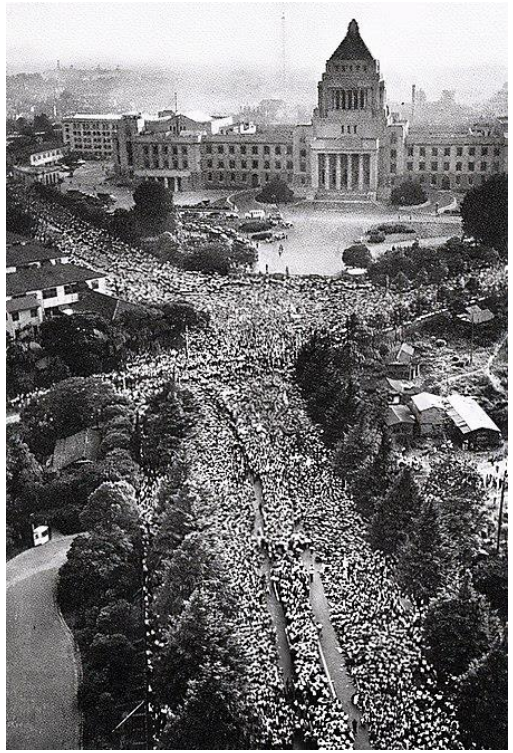
- 高校の公民科目の内容は(実は)ハイレベル
  - 教科書の執筆者の多くは第一線の研究者
  - 主権者教育に関する記述も充実
    - 「政治のことをしっかり学習して選挙に行きましょう」という説明
- 大学で学ぶ政治学は、どこが違うのでしょうか？



投票参加を考える

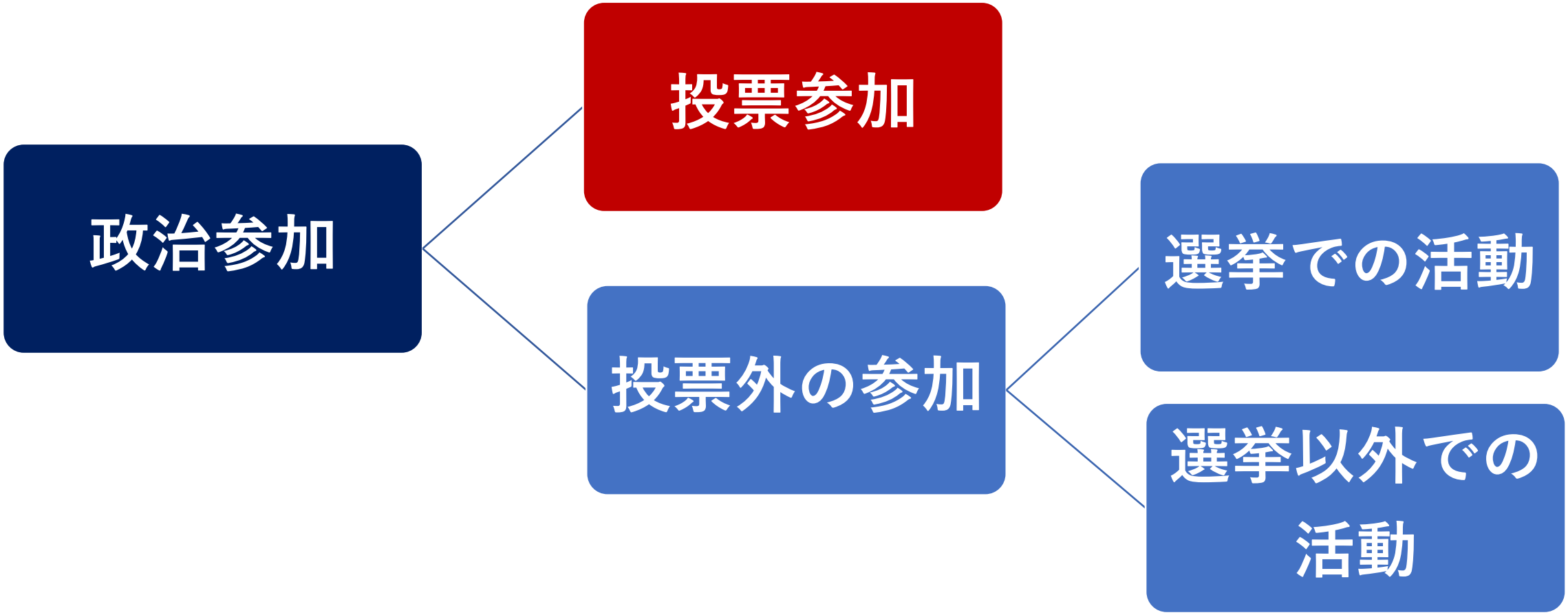
政治参加（Political Participation）



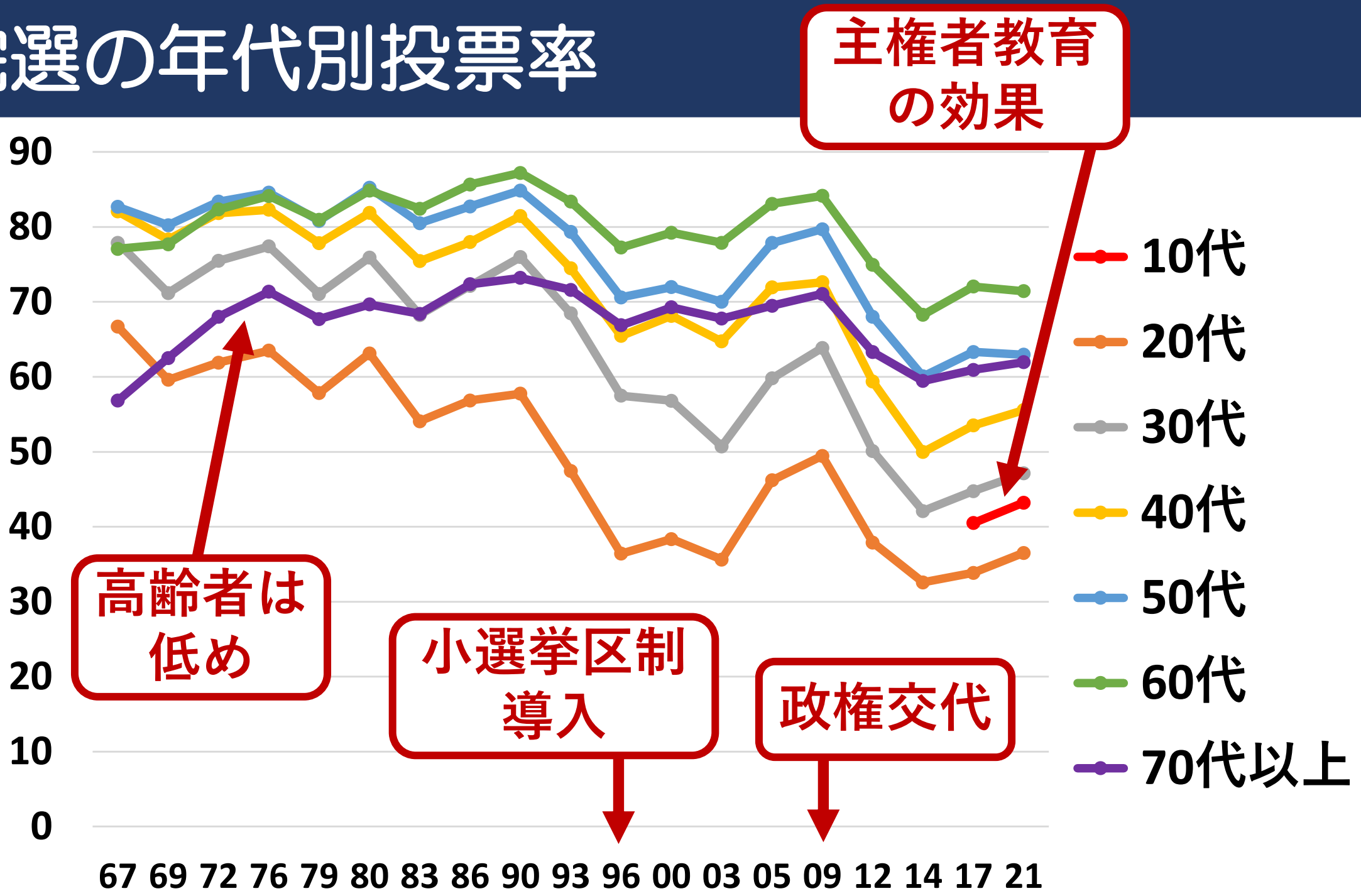


政治参加の様々な種類

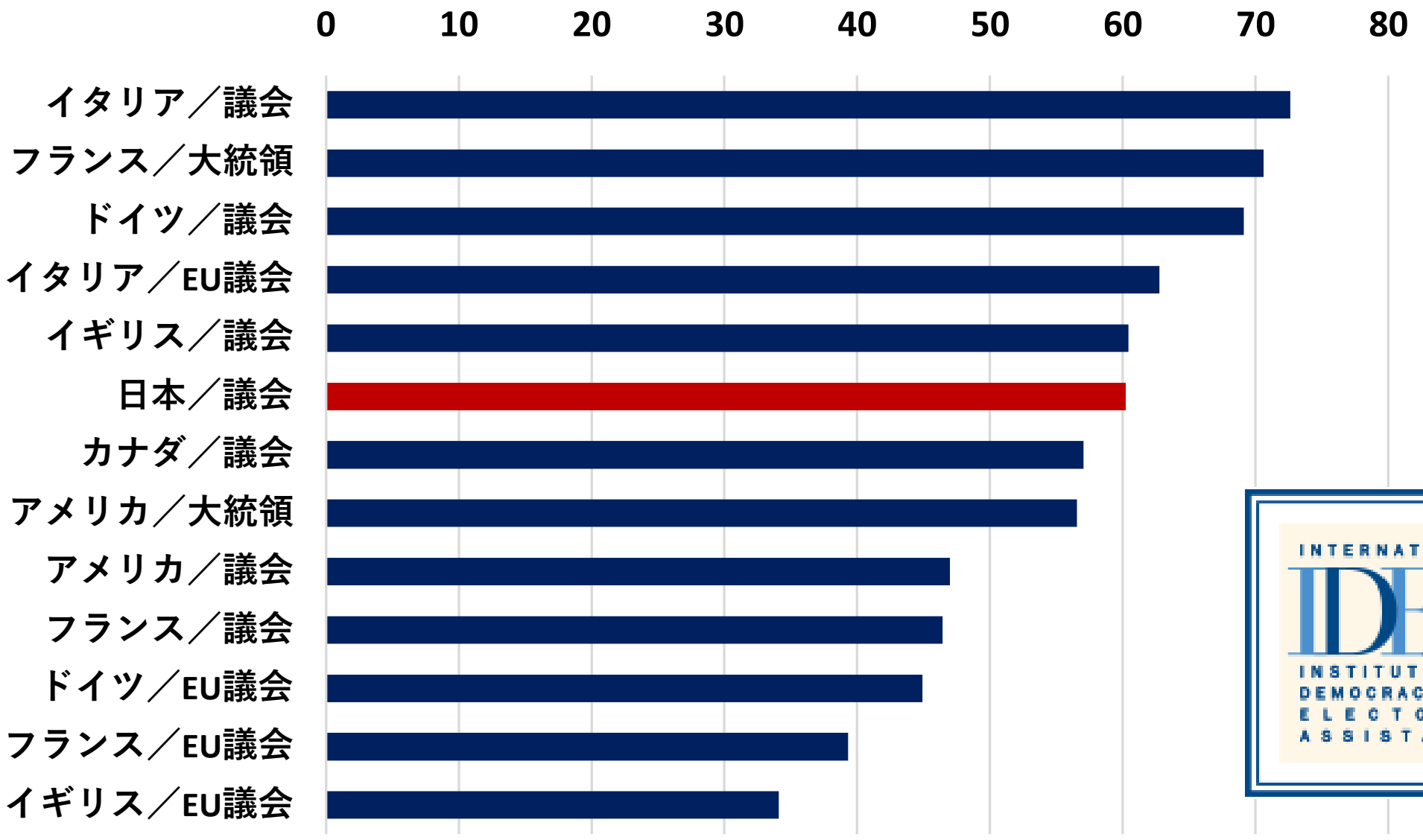
自分の意思を政治に反映させるための行動



衆院選の年代別投票率


主権者教育の効果
高齢者は低め
小選挙区制導入
政権交代
90
80
70
60
50
40
30
20
10
0
67 69 72 76 79 80 83 86 90 93 96 00 03 05 09 12 14 17 21
10代
20代
30代
40代
50代
60代
70代以上

G7諸国の投票率（投票年齢人口比、2000年～）



https://www.idea.int/

どのように考えるべきか

- 日本の投票率が極端に低いわけではない
- 確かに20代の投票率は低めだが…
  - 他の年齢層とパラレルな推移
  - 主権者教育には一定の効果がありそう
  - 「若者＝政治に無関心＝投票に行かない」は一面的すぎる

- 「なぜ若者は棄権するのか？」を（上目線で）論じるより、「**なぜ人は投票するのか？**」を改めて考えてみたい
  - 政治学的にも／制度設計の面でも、より重要なRQ

ところで…

- なぜ、皆さんは本日の東北大法学部オープンキャンパスに参加することに決めましたか？

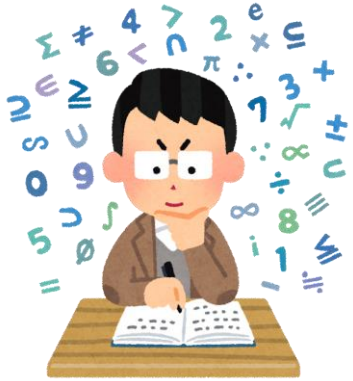
無意識のうちに「計算」して判断していませんか？

➢ 参加のメリット
- 東北大法学部の雰囲気がよく分かる
- 仲の良い友達とキャンパスを回れて楽しい
- 参加しないと叱られる(？)

➢ 参加のデメリット
- 暑いので体力を消耗する
- 交通費がかかる(人によって大きな差)
- 時間が被っている他の学部の企画を見られなくなる

合理的選択理論からのアプローチ

- 合理的選択理論の前提
  - 人々は、期待される効用を最大化する行動を選択
  - 人々は選択肢を完全に順位付けできる
  - 選好（効用）が第1位の選択肢を常に選ぶ



経済学的な発想で投票参加を分析

- 米政治学者のライカーとオーデシュックが発展
- Riker, W. H., & Ordeshook, P. C. (1968). A Theory of the Calculus of Voting. *American Political Science Review*, *62*(1), 25-42.

投票参加の公式

$$R = P \times B - C + D$$

R

★選挙に行くことで得られる利益(reward)

・**R**が正の値(**R** ＞ 0)になれば投票に行く

・**R**が負の値(**R** ≦ 0)になれば棄権する

「有権者は合理的な思考に基づいて
投票するか棄権するかを決めている」というモデル

投票参加の公式

$$R = P \times B - C$$

P ★自分の1票で選挙結果が変わる確率（0～1）

主観的な確率　（Probability）

↑
「今回の選挙は接戦だから投票しよう」
「この村は有権者が少ないから自分の1票が大事だ」

↓
「自分の1票で〇〇さんが当選するわけじゃない」
「自分の支持政党は安泰だから投票する必要なし」

投票参加の公式

$$R = P \times B - C$$

B

★投票参加で自分が得られると思われる効用

（Benefit）

支持する政党が政権を獲得した時の利益

マイナス

対立する政党が政権を獲得した時の利益

↑ 「同性婚を実現しそうな〇〇党に投票しよう」

「消費税を上げそうな〇〇党以外に投票しよう」

↓ 「選挙期間が短く、各党の政策がよく分からない」

投票参加の公式

$$R = P \times B - C$$

C

★投票に行くコスト（Cost）

・投票参加に要する時間や労力

・別の活動をした場合に得られるもの（機会費用）

↑

「大雨なので投票所に行きたくない」

「アルバイトを休まないと投票に行けない」

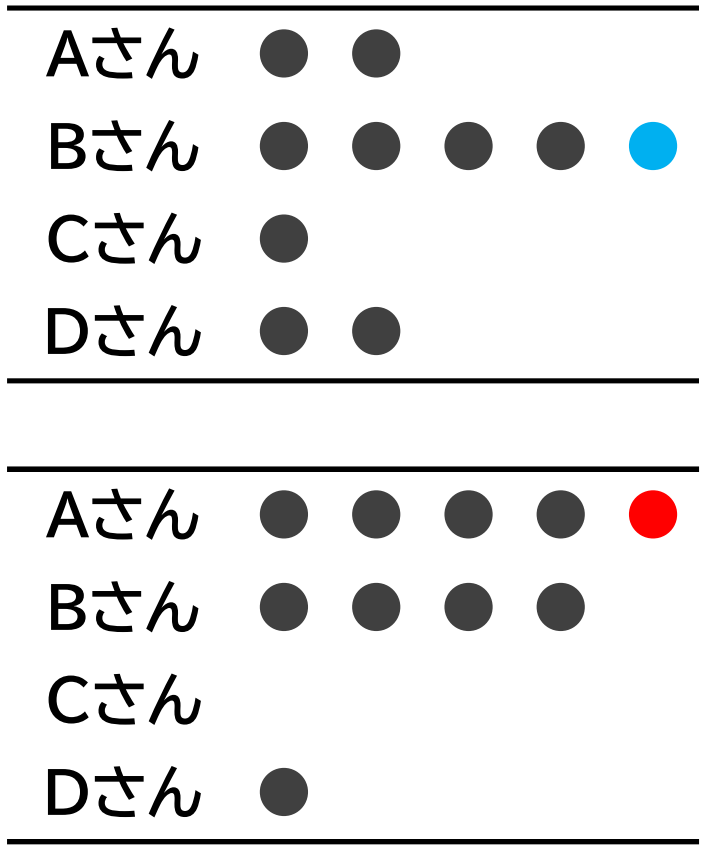
↓

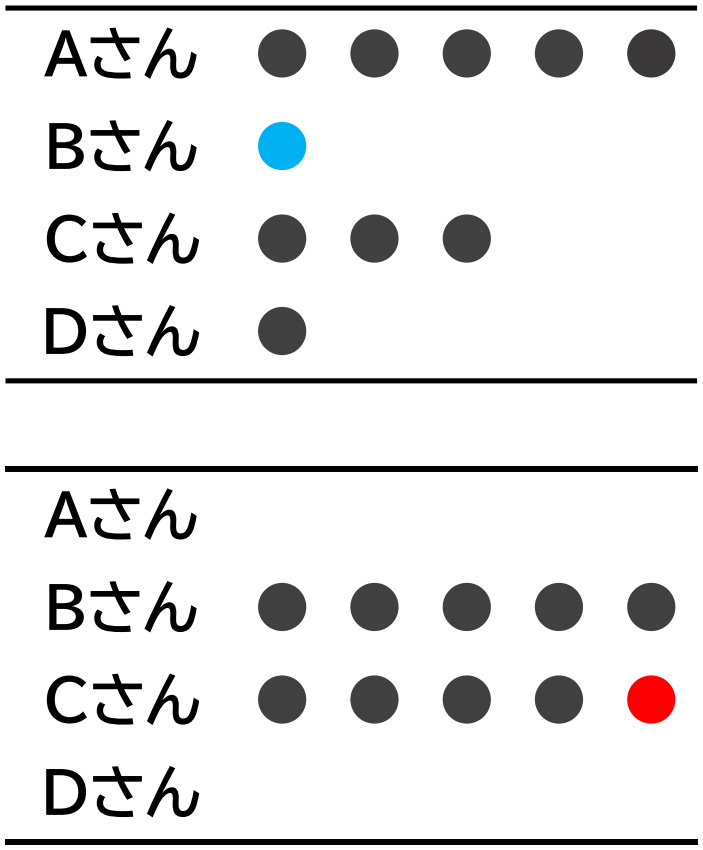
「期日前投票ができるようになった」

「自宅からオンライン投票ができるようになった」

「自分の1票で選挙結果が変わる」とは…？

- 10人が、4人のうちの1人をリーダーに選ぶ場合



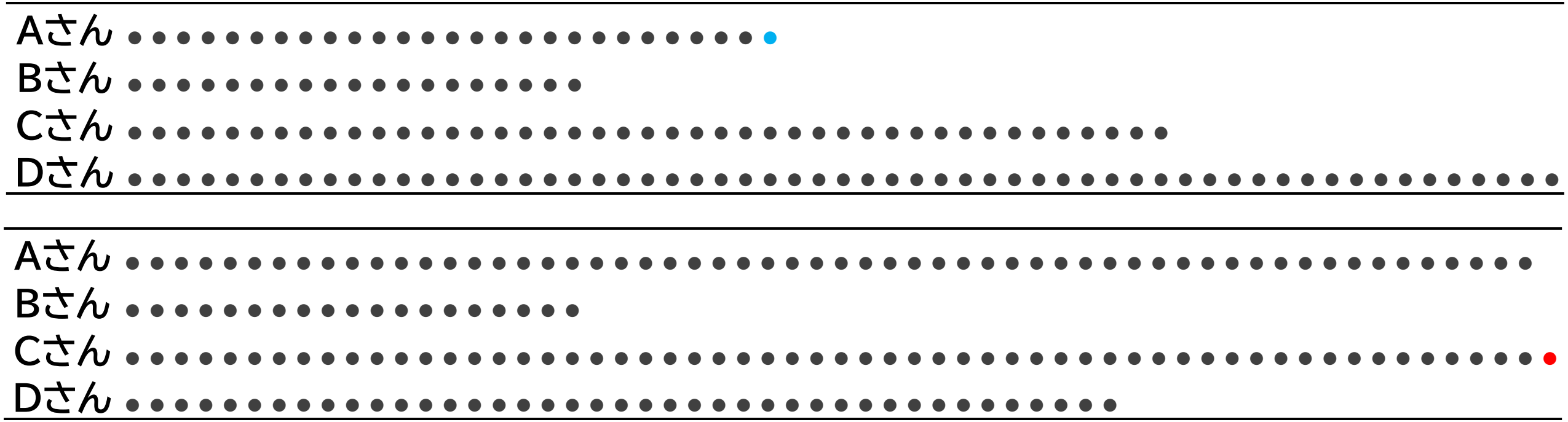


自分の1票で単独1位が決定

自分の1票で同率1位になる

有権者の数が多いと…

- 「自分の1票で選挙結果が変わる」は**事実上あり得ない**
  - 実際の選挙は「僅差で決まる」と言われますが…
- 一般に、得票状況は投票の途中では分からない



投票参加のパラドックス

$$R = P \times B - C$$

- 公式が正しければ、**多くの人は棄権**するのでは？
  - **P**×**B**は0に近くなるはず → **C**を上回る？
  - 一般市民にとって、**C**はかなり大きいのでは？
  - 「**B**を計算するコスト」も必要になる

- しかし、**実際には多くの人が投票参加**している
  - 有権者は「合理的」ではないということ？
  - **P**を主観的に考えて誤解しているから？
  - 多くの政治学者にとっての難題

Bの計算コストが高い大選挙区制

- 2023年7月の仙台市議会議員選挙
  - ➢21人が立候補している青葉区選挙区（定数15）

ボートマッチの流行 ≒ Bの計算コストの高さ

第49回 衆議院選挙

投票マッチング

20の質問に答えるだけで
あなたの意見に最も近い政党をマッチング。

JAPAN CHOICE

意思決定に、ハードルがない社会を。

\ 自分の考えに近い政党はどこ？ /

投票ナビ

投票参加のパラドックス

- 実は「投票参加の公式」以前から存在する指摘
- ダウンズ(1957)『民主主義の経済理論』
  - 短期的な効用(**B**)の他に、投票参加の**結果**として**民主主義のシステムが維持されることによる長期的な効用**が存在
    - 国民生命の安全や経済活動の安定が保たれる
    - 誰も投票しなければ選挙が成り立たない
  - 有権者が繰り返し選挙に行くことで維持される
    - 独裁者も「選挙で負けても次に勝てばいい」と思うようになる
  - 投票参加のモデルにも加える必要がある

投票参加のパラドックス

- 「民主主義維持の効用」をモデルで考慮すれば解決する？
- 民主主義のシステム＝**公共財**
  - 全ての国民が平等に恩恵を受けられる
  - 「特定の国民（棄権した人）は排除」は不可能
  - 他の例：警察のパトロール／電波／広い公園…

必然的に
フリーライダー
が発生

- 結局、**P**と同様の問題が生じてしまう
  - 「自分の1票によって民主主義の維持が左右」という状況…？

根本的な解決にはならない

投票参加の公式

$$R = P \times B - C + D$$

D

★投票に行くこと自体の効用：義務感（Civic Duty）

・民主主義を支えているような意識

・投票で自分の意思を表明することへの満足感

↑

「落選したとしても、自分の1票には重みがある」

「オープンキャンパスで政治参加の重要性を学んだ」

↓

「政治なんて私たちに関係ないでしょ」

「抗議の白票を入れたところで無視されるだけ」

ライカーとオーデシュックによる実証

		High D		Medium D		Low D	
		B		B		B	
		High	Low	High	Low	High	Low
1952	P High	$\frac{323}{362}=.89$	$\frac{104}{124}=.84$	$\frac{259}{310}=.84$	$\frac{95}{141}=.67$	$\frac{86}{150}=.57$	$\frac{73}{159}=.46$
	P Low	$\frac{85}{99}=.86$	$\frac{21}{27}=.78$	$\frac{58}{75}=.77$	$\frac{17}{26}=.65$	$\frac{33}{54}=.61$	$\frac{16}{32}=.50$
1956	P High	$\frac{376}{421}=.89$	$\frac{160}{198}=.81$	$\frac{220}{274}=.80$	$\frac{89}{137}=.65$	$\frac{56}{98}=.57$	$\frac{64}{156}=.40$
	P Low	$\frac{104}{129}=.81$	$\frac{49}{63}=.77$	$\frac{64}{87}=.74$	$\frac{22}{30}=.73$	$\frac{24}{46}=.52$	$\frac{10}{38}=.26$
1960	P High	$\frac{315}{335}=.94$	$\frac{128}{154}=.83$	$\frac{178}{198}=.90$	$\frac{79}{96}=.82$	$\frac{52}{70}=.74$	$\frac{42}{92}=.46$
	P Low	$\frac{37}{41}=.90$	$\frac{8}{12}=.67$	$\frac{26}{33}=.79$	$\frac{3}{4}=.75$	$\frac{8}{11}=.73$	$\frac{5}{12}=.42$

投票参加の公式に関する様々な議論

- 何でも**D**で説明しがちな傾向
  - 合理的選択理論ではなく、専ら**社会心理学**的な説明では？
- 多くの人は「何となく」の印象で**P**を考えている
- 「**P**×**B**ではなく、**P**＋**B**を計算している」という説も
  - 掛け算より足し算のほうがイメージしやすい
- 様々なアプローチによる検証が続いています
  - サーベイ実験／投票環境の効果検証／多国間比較…

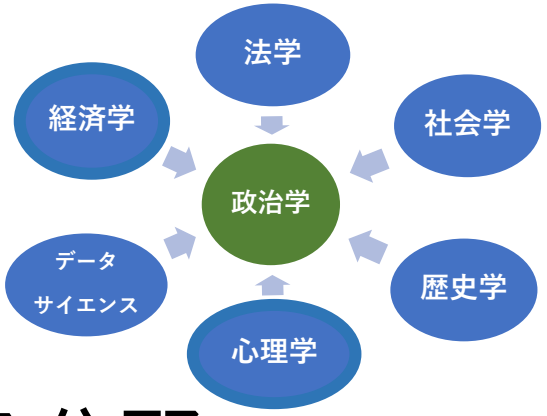
「モデル」で政治学を考えるメリット

- 「投票参加の公式」は机上の空論なのか？
  - 50年以上前の論文が今でも引用されている
- 全てを完璧に説明するモデルは存在しない
  - シンプルなモデルだからこそ、様々な状況に一般化できる
    - 項を増やしていくことは可能だが実用性が低下
  - 「モデルのどこが現実と乖離しているか」自体が有意義な問い
- 現実社会の投票率向上に貢献できる
  - なぜ、特定の状況／属性では投票率が高い／低いのか？
  - **P**／**B**／**D**を高めたり、**C**を下げたりする制度は何か？

大学で学ぶ政治学

「答え」がない

- アカデミックの世界においても議論がある題材を扱う
  - 様々な分野の研究者が参入（政治学の学際性）
  - 国や状況ごとに知見が異なる場合も



- 基礎知識＋**論理的な思考力**が重要
  - パズルが多く残されている＆日々生まれてくる分野
  - 柔軟な発想力も大事（前提を相対化／身の回りにもヒント）

より良い社会の仕組みを
作りたいというマインド

×

面白いものに対する
知的好奇心

おわりに

ご清聴ありがとうございました。

何かご質問はありますか？
（模擬講義の内容／法学部の雰囲気／政治学に関して…）